

福島第一原子力発電所事故を踏まえた
安全性向上対策実行計画の実施状況について

平成24年4月4日

関西電力株式会社

目 次

・ 安全性向上対策実行計画の実施状況	・ ・ ・	P 1
・ 電源確保の取組み	・ ・ ・	P 3
・ 水源確保の取組み	・ ・ ・	P 7
・ 浸水対策の取組み	・ ・ ・	P 11
・ 使用済燃料ピット冷却機能の確保	・ ・ ・	P 16
・ シビアアクシデント対策	・ ・ ・	P 17
・ 発電所の緊急時対策拠点の設置	・ ・ ・	P 18
・ 外部電源強化の取組み	・ ・ ・	P 19
・ 耐震サポートの総点検	・ ・ ・	P 20
・ タンク基礎ボルトの総点検	・ ・ ・	P 21
・ 格納容器破損防止のためのフィルタ付ベント設備の設置	・ ・ ・	P 22
・ 天正地震に関する津波堆積物調査の結果	・ ・ ・	P 23
・ 若狭湾沿岸における津波堆積物の追加調査概要	・ ・ ・	P 24
・ まとめ	・ ・ ・	P 25

安全性向上対策実行計画の実施状況

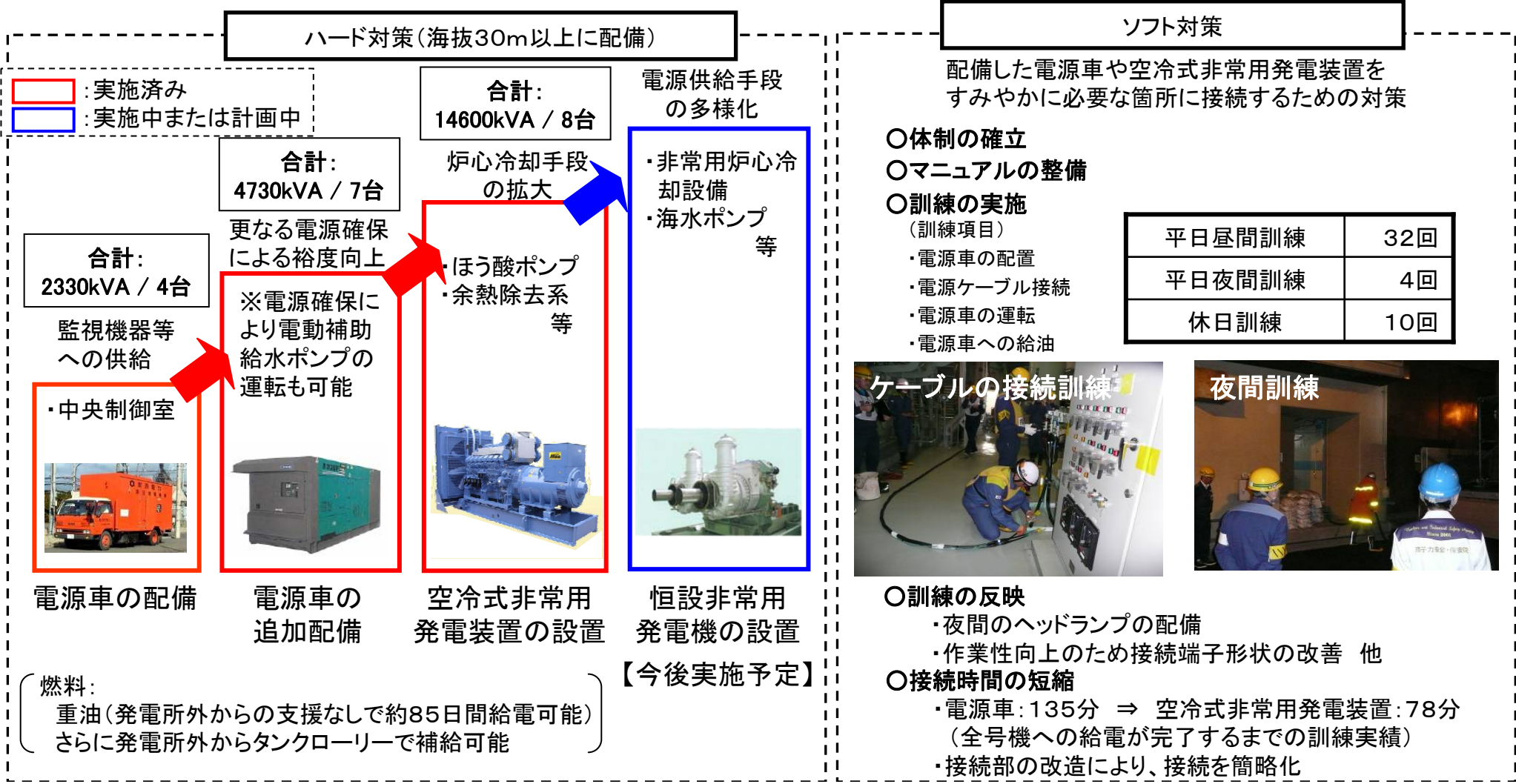
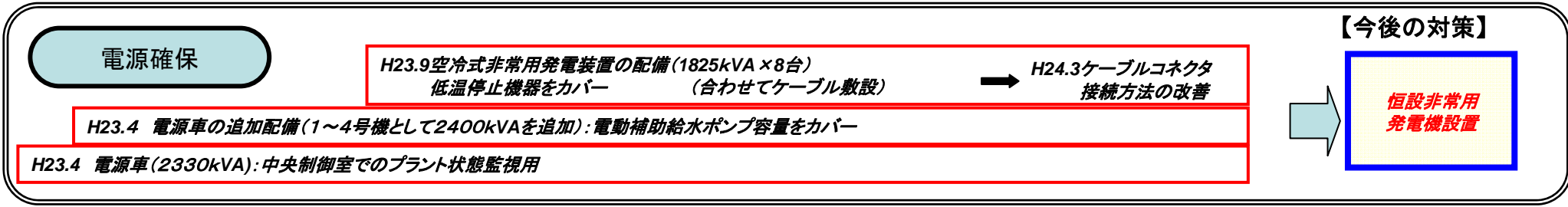
主な対策内容		H23	H24	H25
電源確保	電源車の配備	▼ H23.4 配備済み		
	空冷式非常用発電装置の設置	▼ H23.9 配備済み		
	恒設非常用発電機の設置	[黒塗り]		設計・調査
水源確保	消防ポンプ・消火ホースの配備	▼ H23.4 配備済み		
	海水供給用可搬式ポンプの配備	▼ H23.6 配備済み		
	タンク間の配管改造	[黒塗り]		24年9月完了予定
	大容量ポンプの配置	[黒塗り] 製作	H23.12 配備済み	
	海水ポンプモータ予備品の保有	[黒塗り] 設計	[黒塗り] 製作	H24.3 配備済み
浸水対策	扉等へのシール施工	[黒塗り] H23.5 実施済み		
	水密扉への取替	[黒塗り] 設計	[黒塗り] 製作	24年9月完了予定
	防波堤のかさあげ、防潮堤等の設置	[黒塗り]		27年度迄に順次設置(各発電所 2月～ 着手)
使用済燃料ピット 冷却機能の確保	消防ポンプ、資機材の配備	▼ H23.4 配備済み		
	消火水注入のための配管設置	[黒塗り]		H23.12 設置済み
	配管支持構造物補強	その1 H23. 7完了		実施中 24年度中に完了予定
	非常用電源からの電源供給	[黒塗り] 定期検査で順次実施中		
	監視カメラ設置	[黒塗り]		H23.8 設置済み

安全性向上対策実行計画の実施状況

主な対策内容		H23	H24	H25
シビアアクシデント対策	通信手段の確保	▼ H23.6 携帯型通話装置等を配備済み		
	高線量防護服の配備	▼ H23.6 配備済		
	水素爆発防止対策	▼ H23.6 SBO時のアニュラスからの水素排出手順を整備	静的触媒式水素再結合装置を定期検査で順次設置	
	がれき撤去用の重機の配備	▼ H23.6 ホイールローダーを配備済み		
その他設備面の対策	免震事務棟の設置		概略検討、設計	28年度迄に設置予定
	外部電源の信頼性の向上、強化			29年度迄に実施予定
	緊急炉心冷却系統耐震サポート総点検			総点検実施中(大飯3、4号、高浜1号、美浜3号実施済)
	基礎ボルト総点検			総点検実施中(大飯3、4号、美浜1～3号実施済)
	フィルタ付ベント設備の設置			数年後完了目途
ソフト面等の安全対策	緊急時対応体制の強化	H23. 12に設備改良前の対応を実施		H23.3 設備完了後の対応完了
	追 初動要員の更なる増員			H24.4中に実施予定
	追 指揮命令系統の明確化			H24.3 実施済み
	メーカーとの連絡・支援体制強化			H24.2 実施済み
	追 協力会社による発電所支援体制の構築			H24.3 実施済み
	衛星携帯電話の追加配備			▼ H24.2 配備済み
	追 衛星電話の屋外アンテナの追加設置			H24.9迄に設置予定

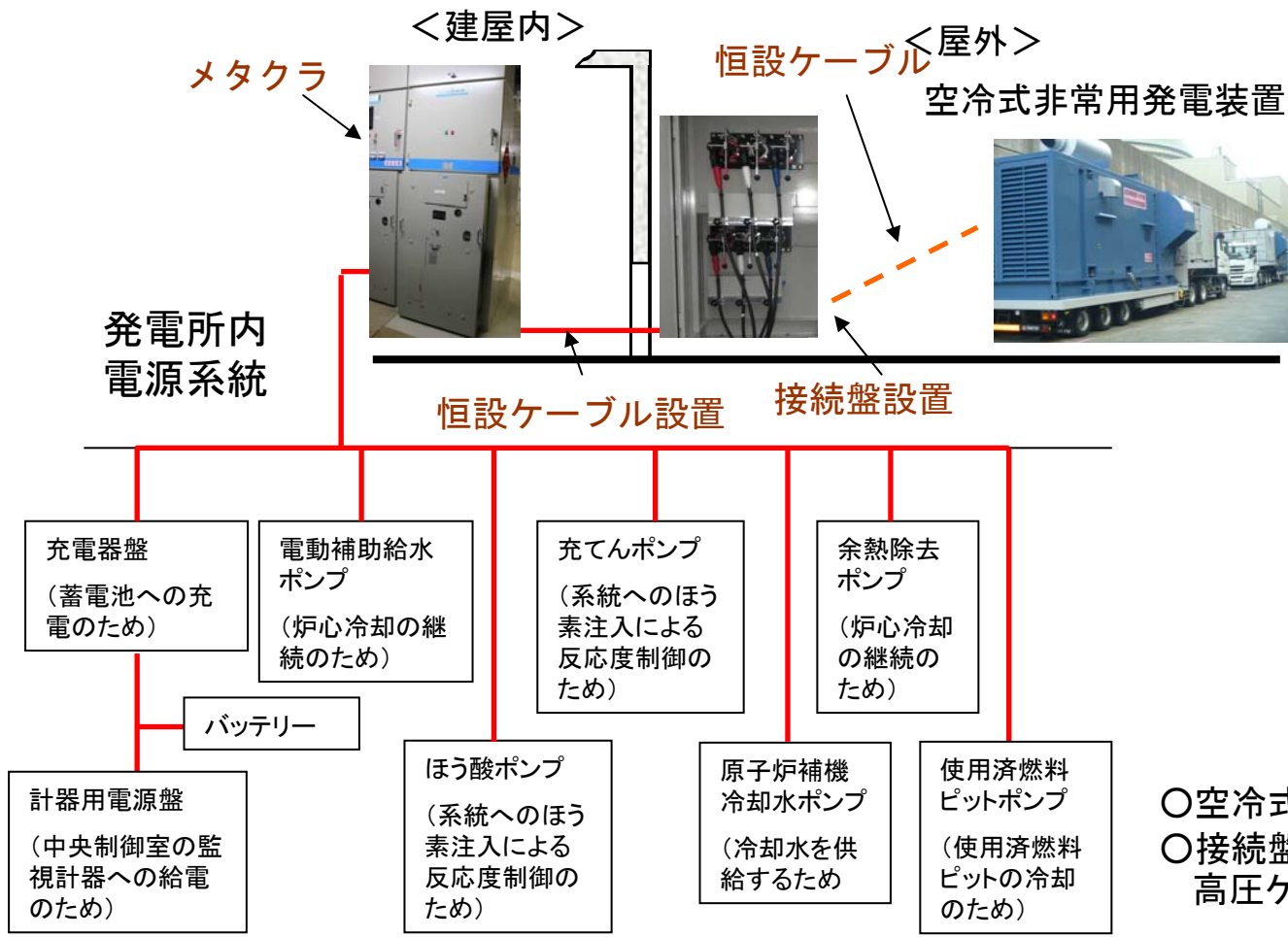
追: 初動体制等に係る追加安全対策

電源確保の取組み(1/4)(例:大飯発電所)



電源確保の取組み(2/4)

非常用ディーゼル発電機の代替電源設備として、中央制御室の監視計器や電動補助給水ポンプ等の炉心の継続的な冷却に必要な機器の電力をまかなえる容量の空冷式非常用発電装置を設置した(平成23年9月設置済)

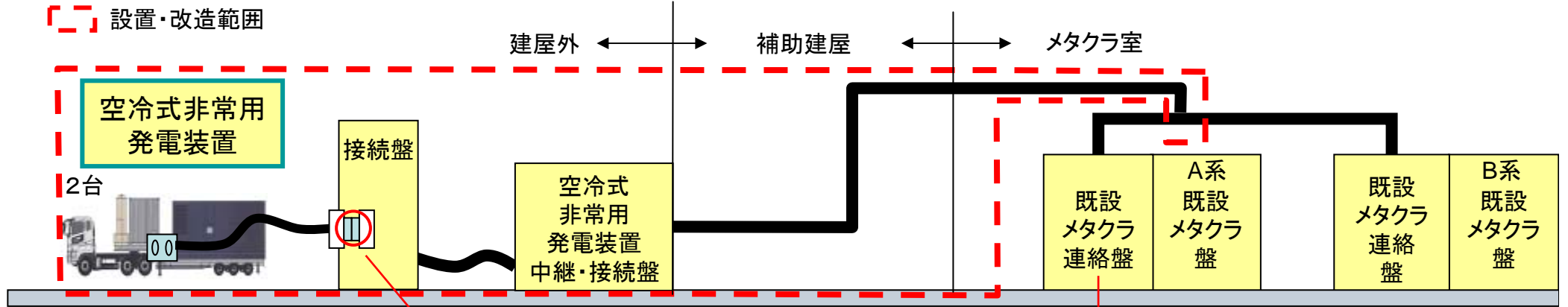


プラント	継続的な冷却に必要な容量(kVA)	配備総容量(kVA)
美浜1号	約1,000	1,825
美浜2号	約2,000	3,650
美浜3号	約3,500	3,650
高浜1・2号	約3,000	3,650
高浜3・4号	約3,500	3,650
大飯1・2号	約3,500	3,650
大飯3・4号	約3,500	3,650

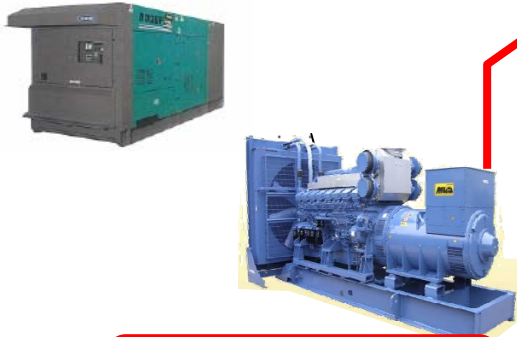
- 空冷式非常用発電装置(1825kVA) 21台 配備済
- 接続盤および接続盤と発電所内電源系統を繋ぐ高圧ケーブルの恒設化を実施

○今後は、恒設非常用発電装置の設置等、電源の信頼性を高める対策を実施していく。

電源確保の取組み(3/4)



予備の電源車の配備
 空冷式非常用発電装置へ置き換えた以降も万一の不測の事故に備え、高所に予備電源車を配備している(1台/発電所)



電源の確保
 空冷式非常用発電装置に合わせてケーブルを敷設

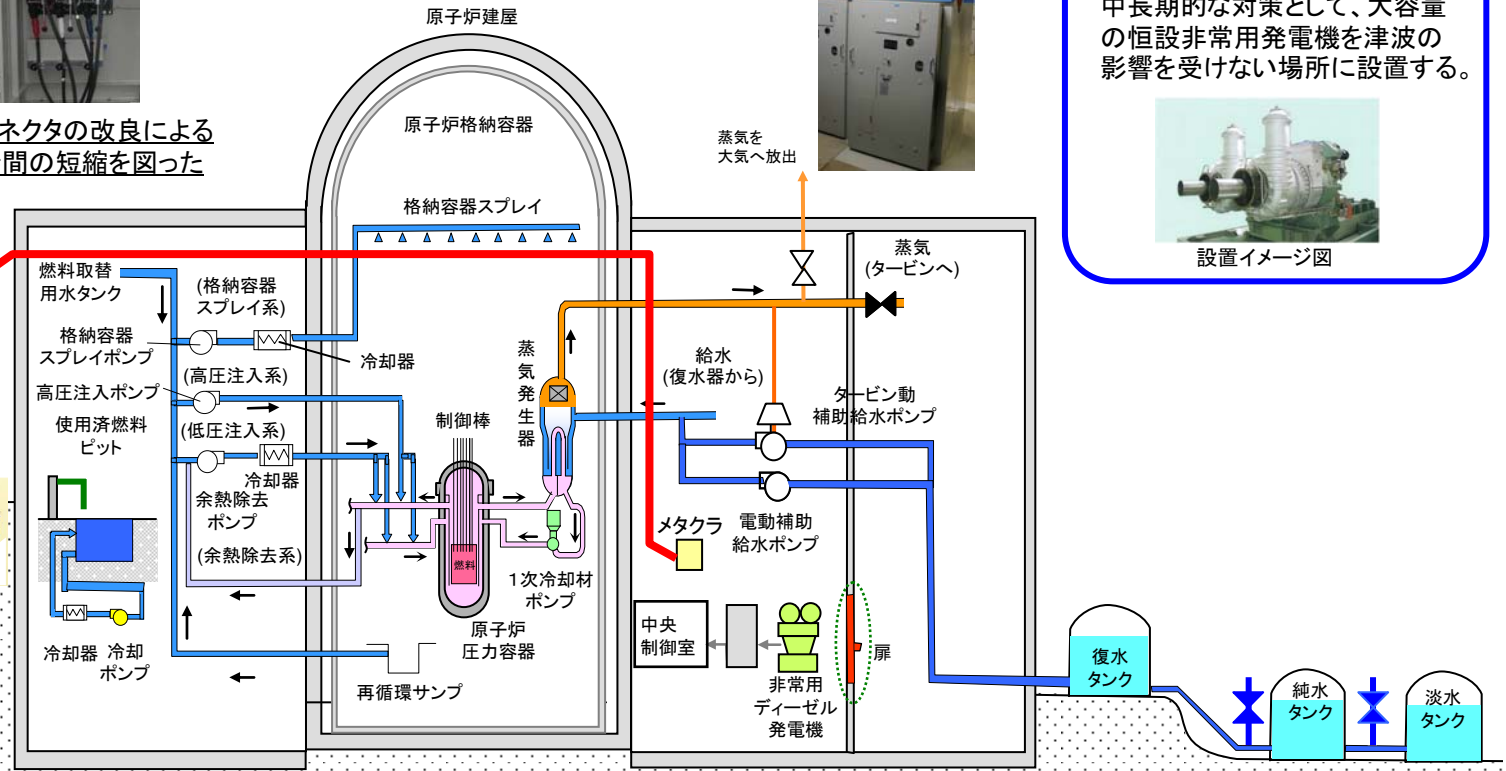
接続コネクタの改良による作業時間の短縮を図った



恒設非常用発電機の設置
 中長期的な対策として、大容量の恒設非常用発電機を津波の影響を受けない場所に設置する。

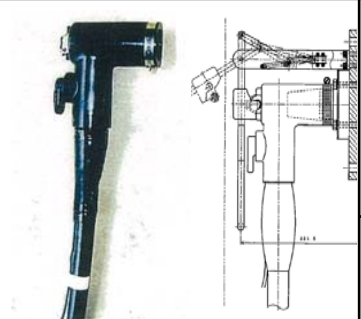



設置イメージ図

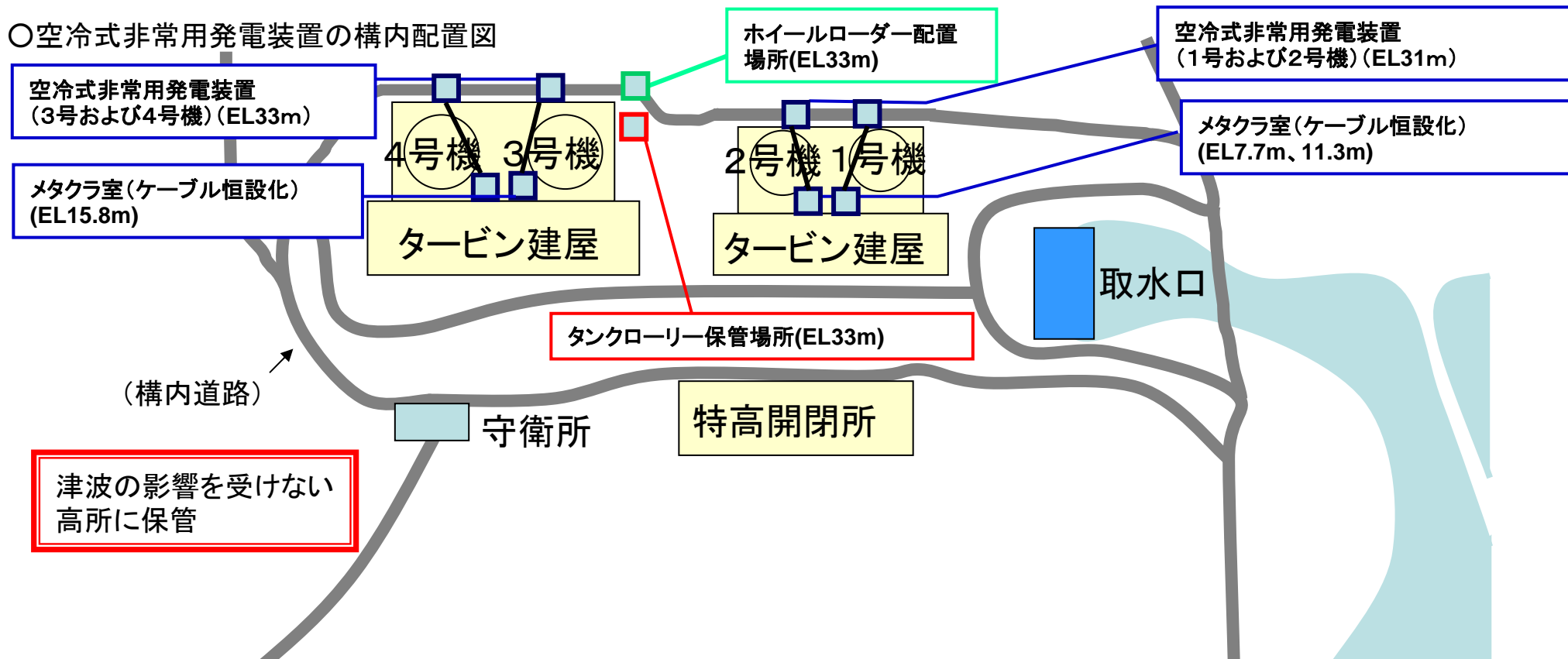


電源確保の取組み(4/4) (例:大飯発電所)

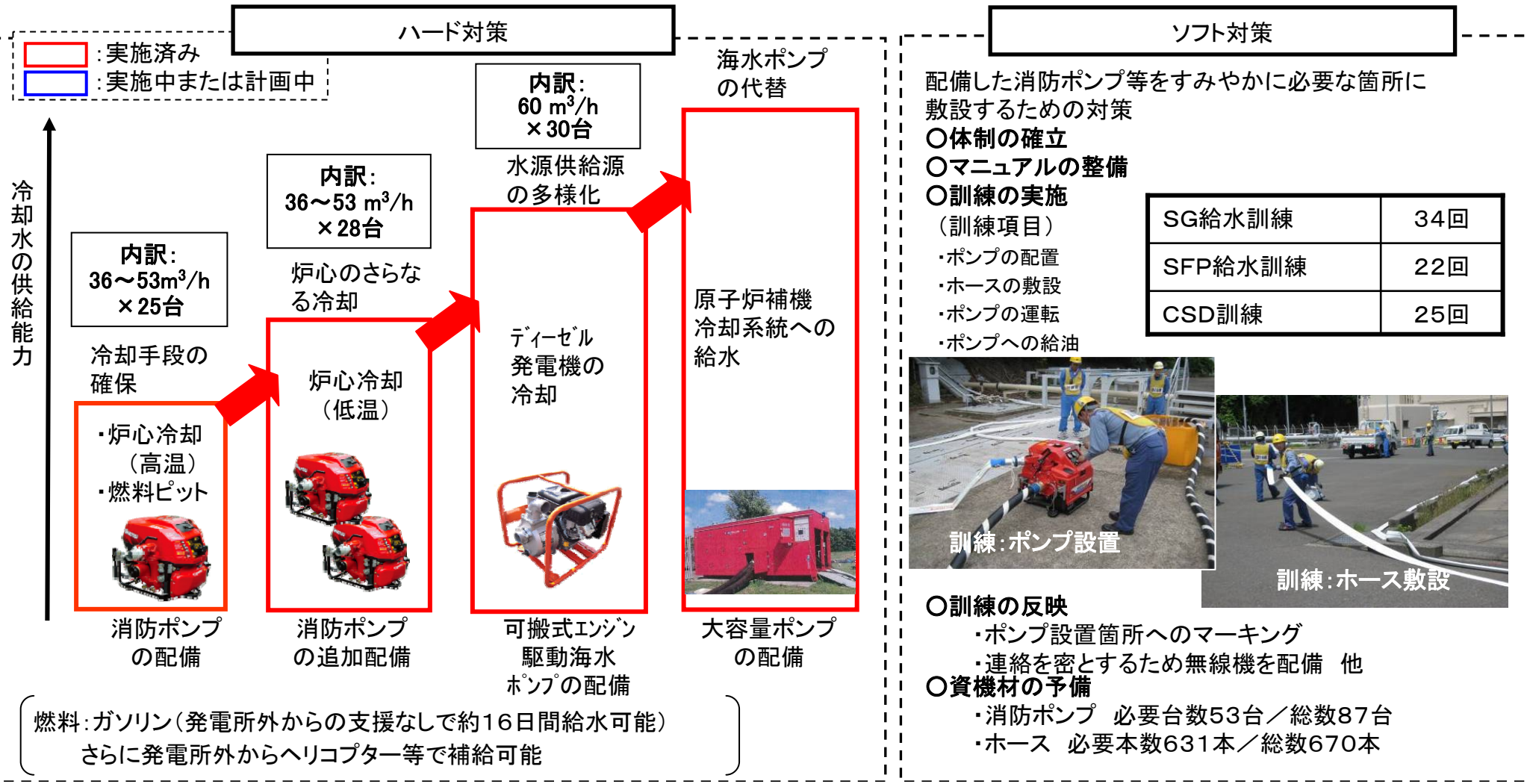
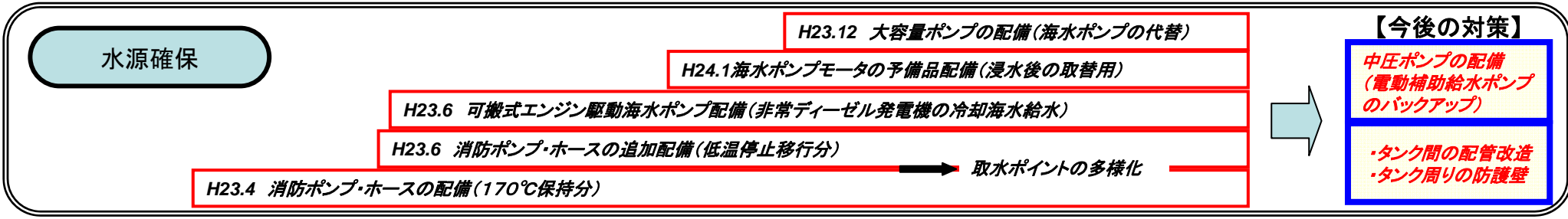
○空冷式非常用発電装置の接続コネクタの改良(作業効率化)

	改良型(押し込み式)	旧型(ネジ込み式)
概要	 <ul style="list-style-type: none"> ・難燃性ゴムに変更 ・抜き差し補助機構により小さな力で操作可能。 ・ゴム製のため軽量(2kg程度) 	 <ul style="list-style-type: none"> ・コネクタ頂部のネジ込みにより接続 ・ネジ込み機構のため、重量のある金属外装付き(10kg程度) ・接続に20分以上必要。
必要人数	<ul style="list-style-type: none"> ・1人/ユニットの体制で操作可能 ・加えて冗長性を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人/ユニットの体制

○空冷式非常用発電装置の構内配置図

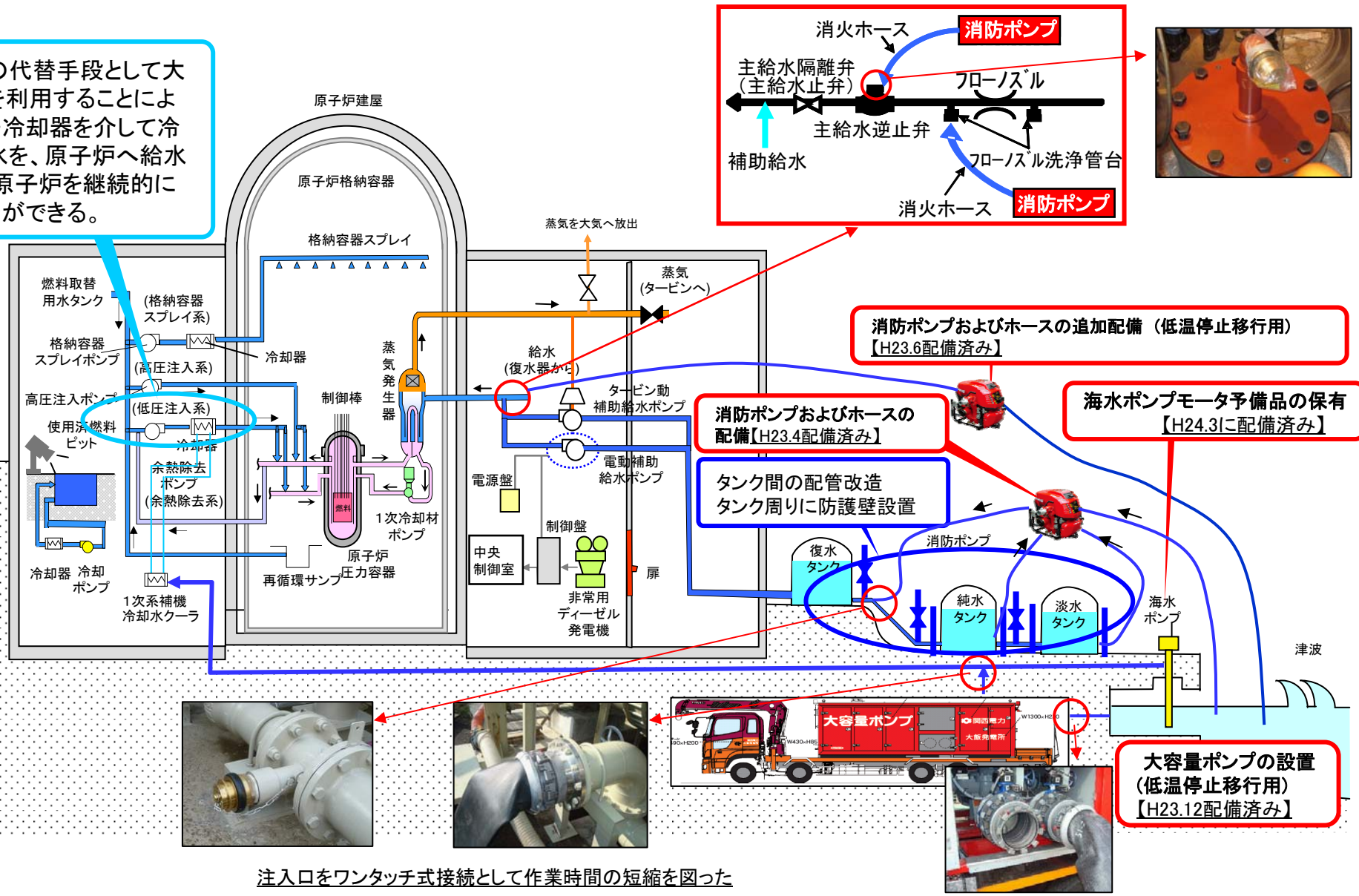


水源確保の取組み(1/4)(例:大飯発電所)



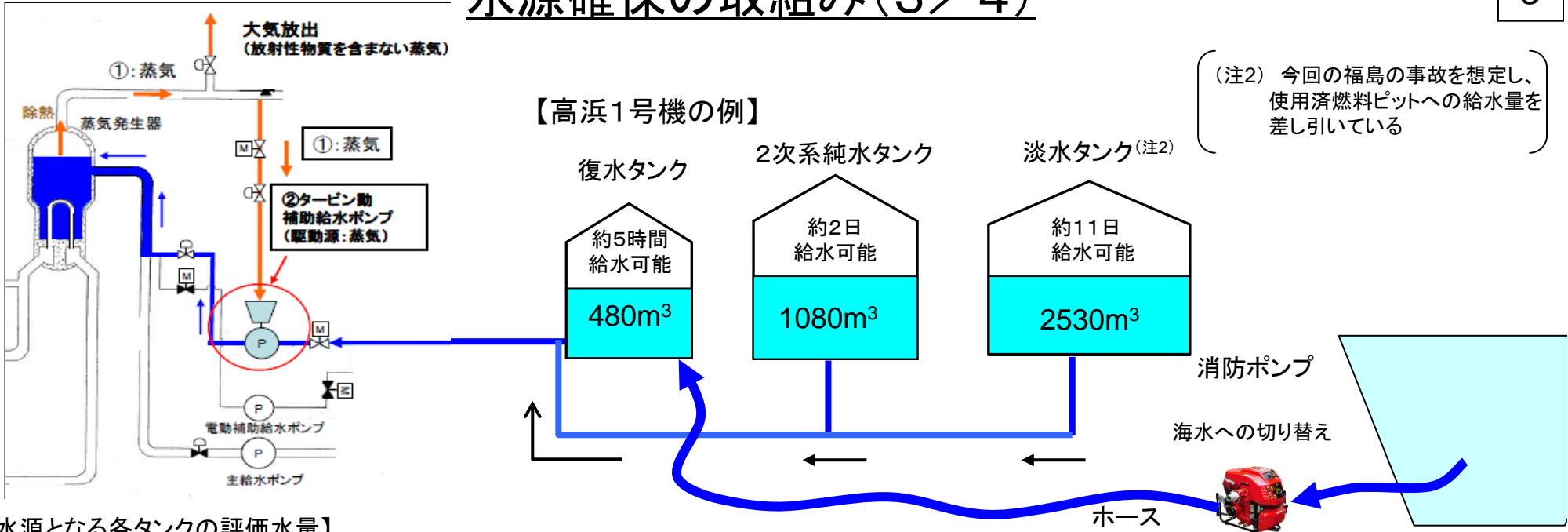
水源確保の取組み(2/4)

海水ポンプの代替手段として大容量ポンプを利用することにより、余熱除去冷却器を介して冷却した冷却水を、原子炉へ給水することで、原子炉を継続的に冷却することができる。



注入口をワンタッチ式接続として作業時間の短縮を図った

水源確保の取組み(3/4)



【水源となる各タンクの評価水量】

	美浜発電所			高浜発電所				大飯発電所			
	1号	2号	3号	1号	2号	3号	4号	1号	2号	3号	4号
復水タンク[m ³]	200	270	480	480	480	520	520	735	735	730	730
2次系純水タンク[m ³]	600	600	1200	1080	1080	2400	2400	4000	4000	4200	4200
淡水タンク(注1)[m ³]	685	689	2400	2530	2530	4300	4300	340	340	-	-
評価水量合計[m ³]	1485	1559	4080	4090	4090	7220	7220	5075	5075	4930	4930
真水給水可能時間[日]	9	5	13	13	13	30	30	10	10	9	9

(注1) 大飯1,2号機については主復水タンク

○発電所内で保有しているタンク水が枯渇した後に、海水を供給できるように消防ポンプ等を配備した。
 ○復水タンクへの水の供給が容易になるようにタンク間の配管改造を実施中。(H23. 10~H24. 9)

水源確保の取組み(4/4)

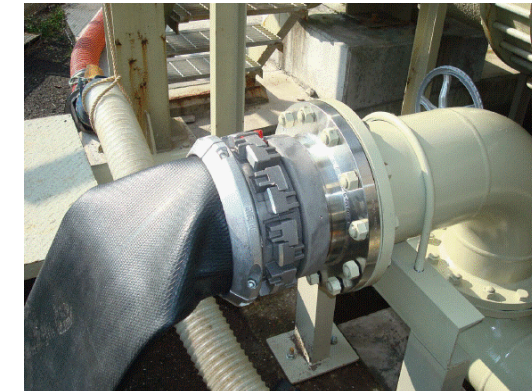
○大容量ポンプの接続口

ホースの接続は、ワンタッチ式となっており、ホースを押し込み回すことで接続が可能

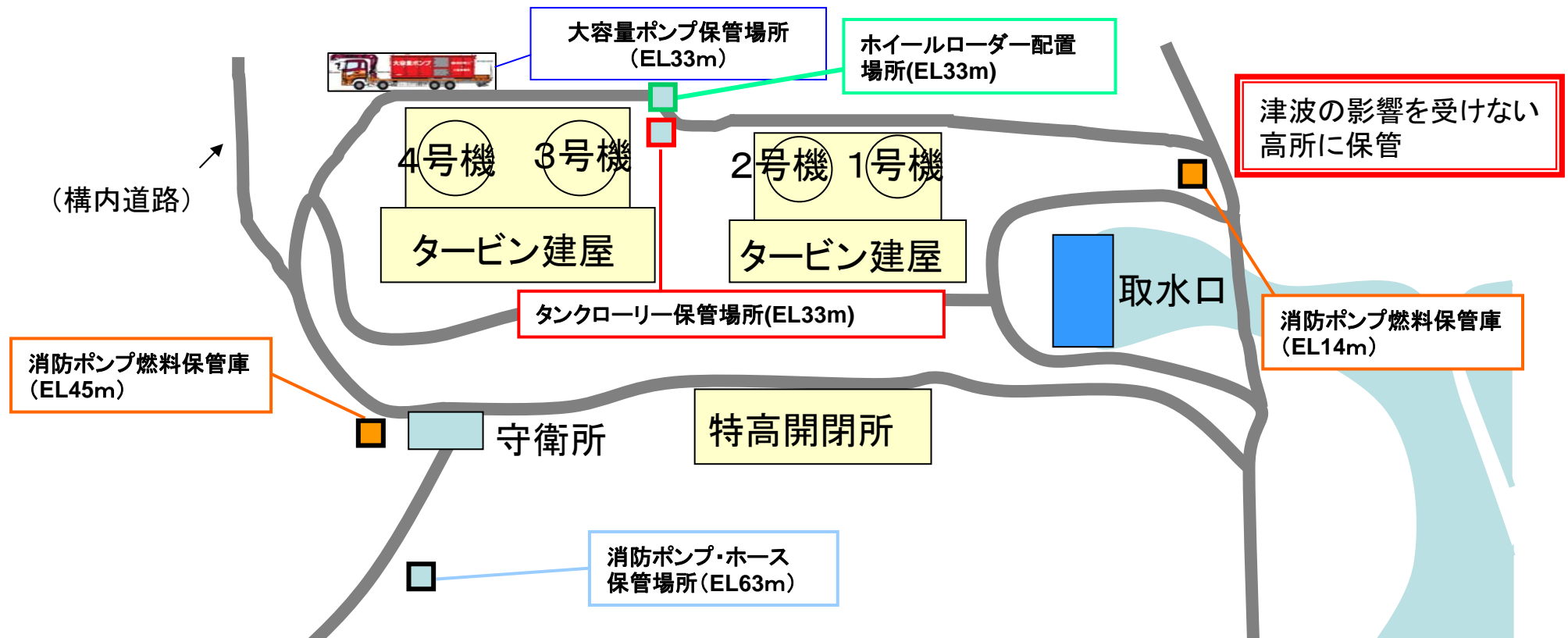
【大容量ポンプ本体との接続口】



【海水ポンプストレーナとの接続口】



○給水設備の構内配置図(大飯発電所の例)



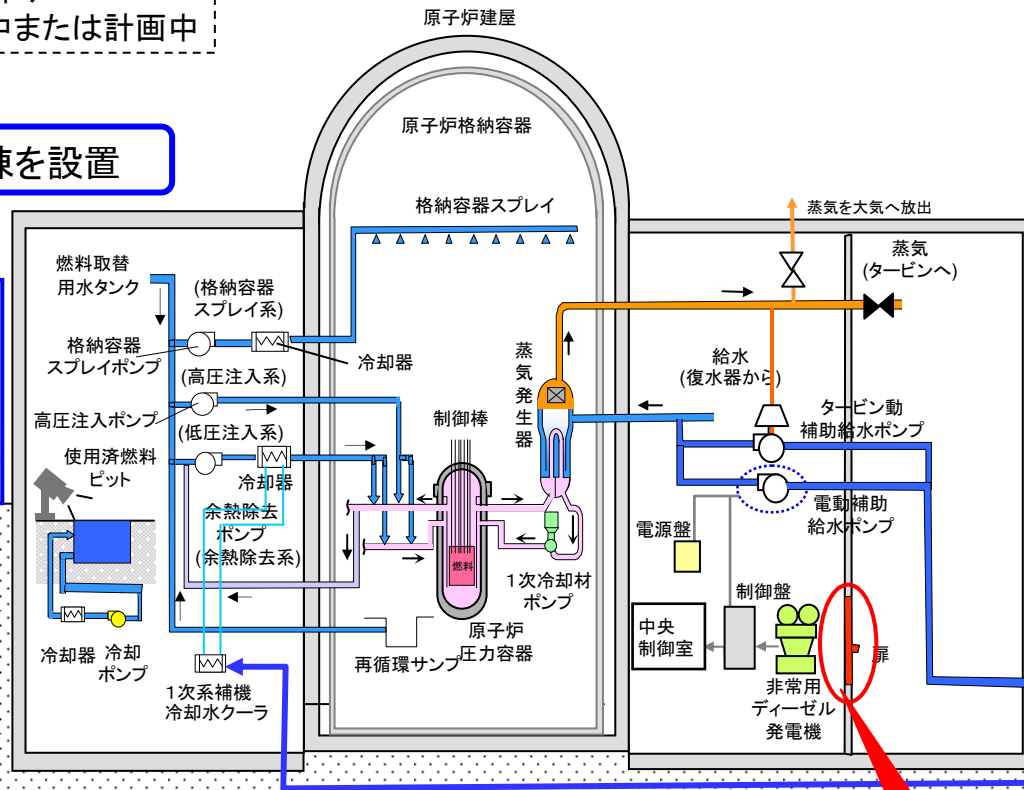
浸水対策の取組み(1/5)

: 実施済み
 : 実施中または計画中

免震事務棟を設置



設置イメージ図



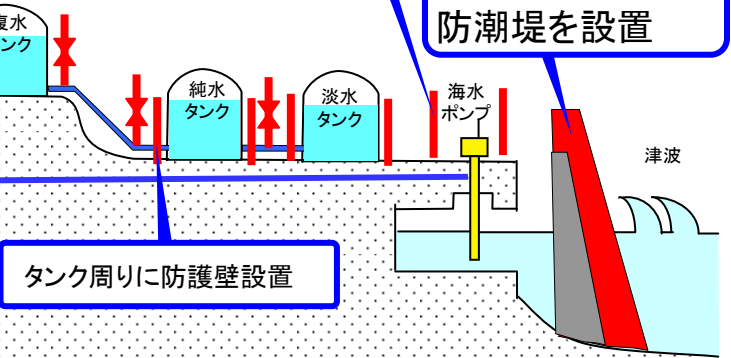
非常用ディーゼル発電機室の吸排気口のかさ上げ



改造後イメージ図

海水ポンプ防護壁の設置

既存防波堤のかさ上げもしくは防潮堤を設置



a. 扉等へのシール施工



b. 水密扉への取替

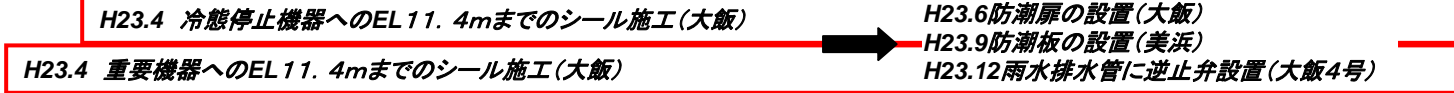
部屋単位での浸水防止対策を施し、重要な機器が機能喪失しないように改善した。

浸水対策の取組み(2/5)

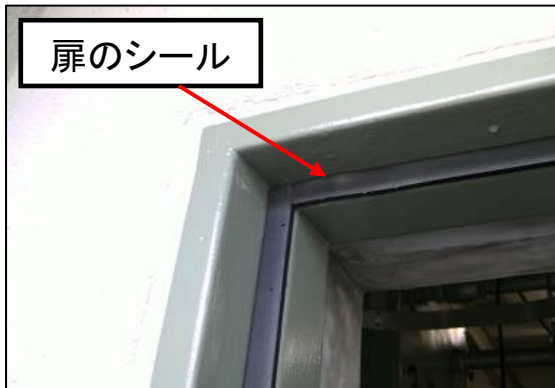
浸水対策

- : 実施済み
- : 実施中または計画中

【今後の対策】



【扉等のシール施工】



【美浜1, 2号機背面道路部の防潮板の設置】 ＜防潮板取付状態＞



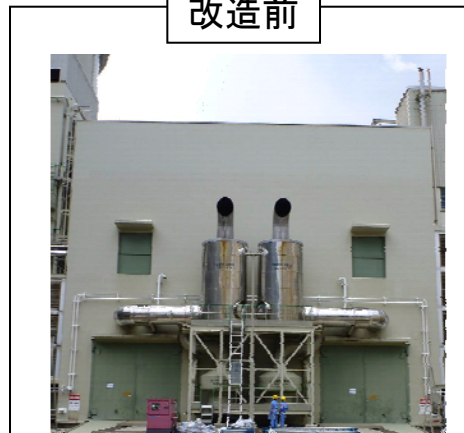
(美浜2号機使用済燃料ピットシャッター前)

【水密扉への取替】

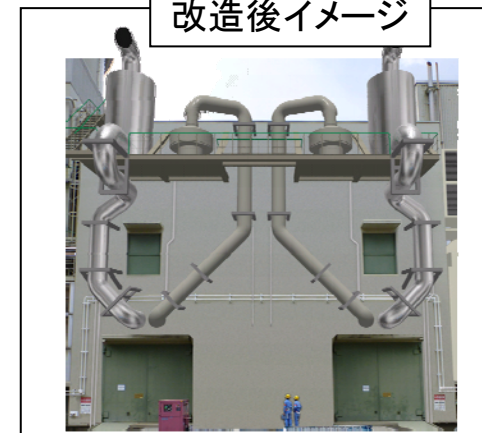


【非常用ディーゼル発電機室の吸排気口のかさ上げ(高浜3号機)】

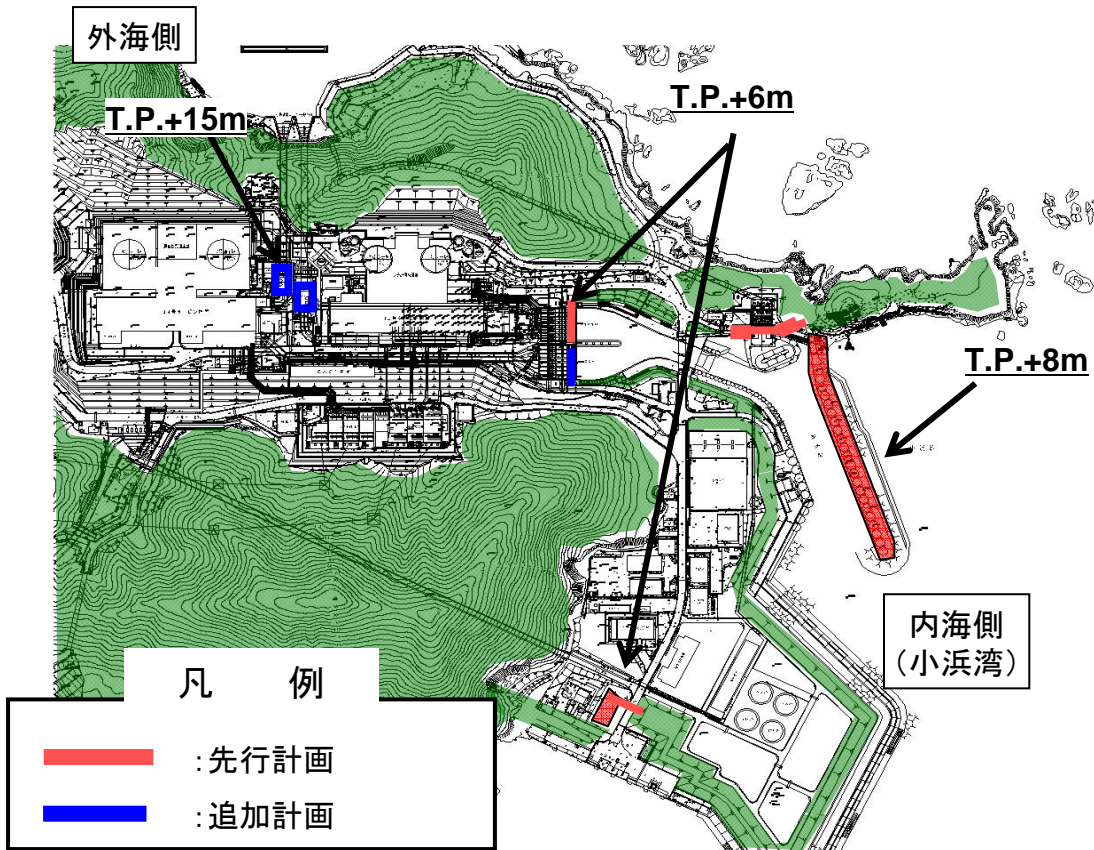
改造前



改造後イメージ



浸水対策の取組み(3/5)(大飯発電所)



「福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全性向上対策の実行計画について」(H23.4)において計画した先行実施対策に加え、**放水路ピットかさ上げ等を追加計画。**

外海側は山で囲まれているため防潮堤はない。ただし、外海に面している放水口からの逆流による浸水防止のためにT.P.+15mまで放水路ピット壁のかさ上げを実施。(追加対策)

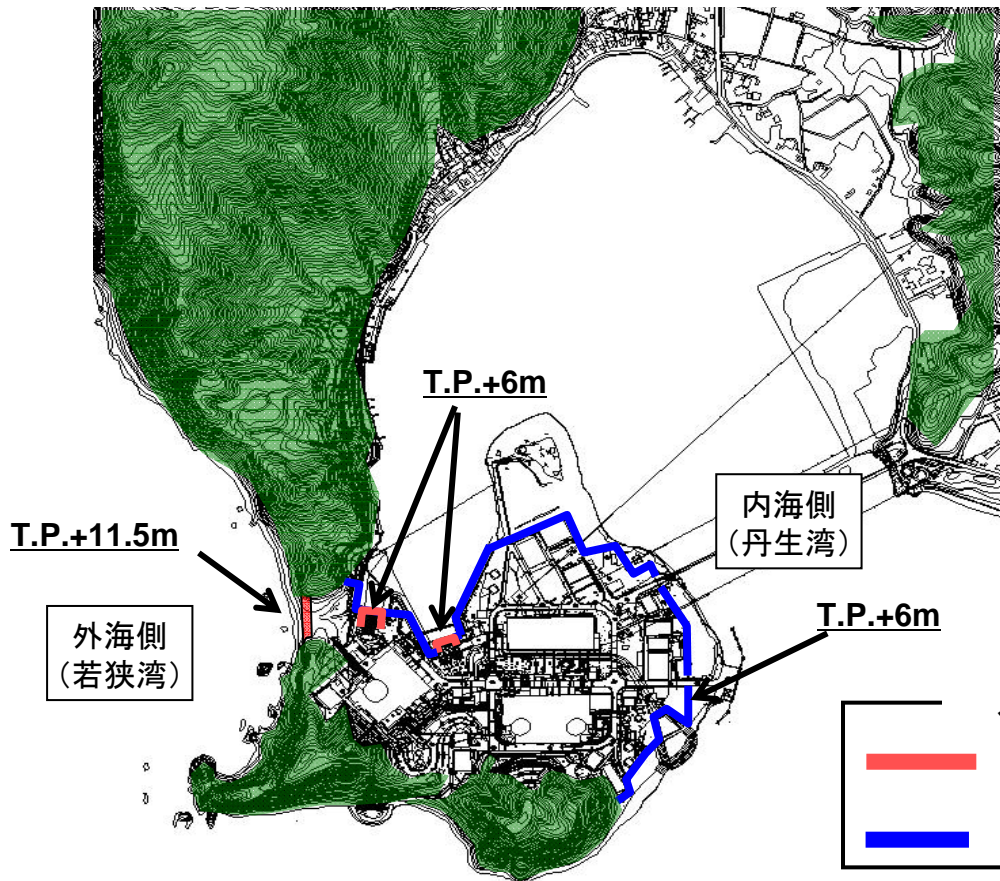
内海側についてもT.P.+6mの津波高さを想定し、防波堤のかさ上げ*および防護壁を設置。(先行実施対策)

*防波堤のかさ上げは、高さ3mの消波ブロック1段分をかさ上げし、現状のT.P.+5mからT.P.+8mにする。)

対策	H23年度	H24年度	H25年度	備考
タンク周りの防護壁設置	設計	施工	▽平成25年3月	
既存防波堤のかさ上げ	設計	施工		▽平成26年3月
取水設備まわりの防護壁設置	設計	施工	▽平成25年6月	
放水路ピットかさ上げ および防潮堤設置	設計	施工		▽平成26年3月

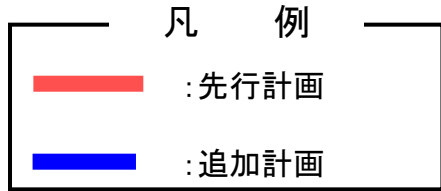
※施工工程は、今後の現地調査等により変更になる可能性はある。

浸水対策の取組み(4/5)(美浜発電所)



「福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全性向上対策の実行計画について」(H23.4)において計画した先行実施対策に加え、**発電所を囲むように追加の防潮堤設置を計画。**

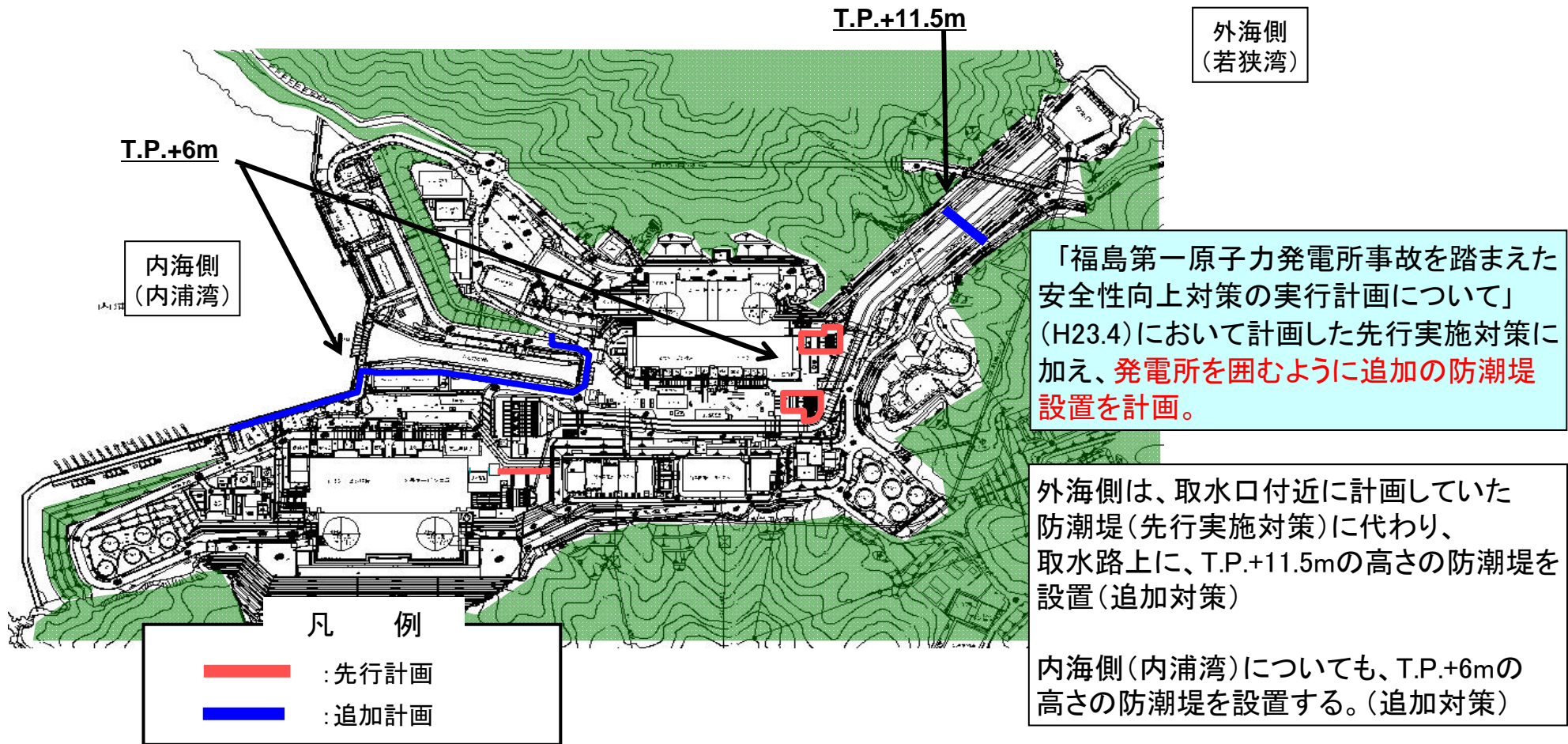
外海側(あご越え部)は、T.P.+11.5mの高さの防潮堤を設置(先行実施対策)
 内海側(丹生湾)は、発電所を囲むようにT.P.+6mの高さの防潮堤を設置(追加対策)



対策	H23年度	H24年度	H25年度	備考
タンクまわりの防護壁設置	(全周防潮堤(追加対策)として対策を実施)			
防潮堤の設置(あご越え部)	設計	施工	▽平成25年12月	
取水設備まわりの防護壁設置	設計	施工	▽平成25年12月	
全周防潮堤設置	設計	施工		▽平成27年度末

※施工工程は、今後の現地調査等により変更になる可能性はある。

浸水対策の取組み(5/5)(高浜発電所)



対策	H23年度	H24年度	H25年度	備考
防潮堤の設置(取水口部)	(全周防潮堤(追加対策)として対策を実施)			
取水設備まわりの防護壁設置	設計	施工	▽平成25年3月	
全周防潮堤設置	設計	施工		▽平成27年度末

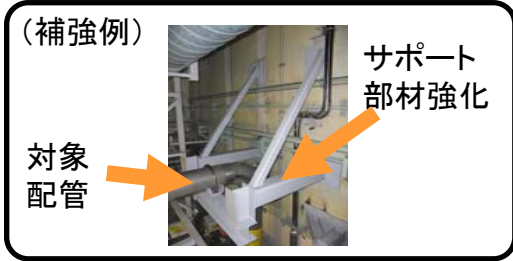
※施工工程は、今後の現地調査等により変更になる可能性はある。

使用済燃料ピット冷却機能の確保

④非常用電源からの電源供給
 使用済燃料ピットの監視強化のため、水位・温度監視に必要な電源を非常用発電機から確保できるよう設備改善を実施

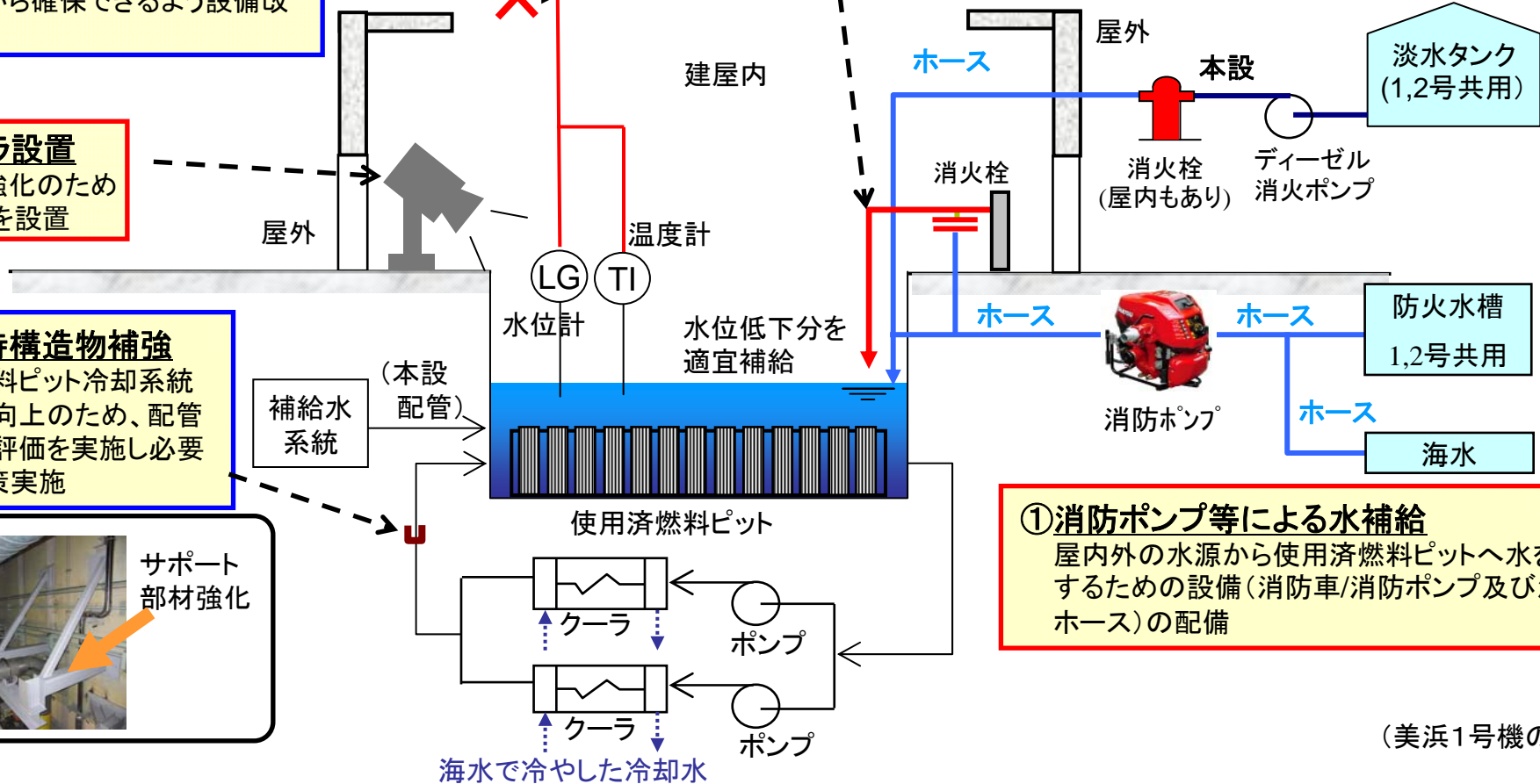
⑤監視カメラ設置
 水位監視強化のため監視カメラを設置

③配管支持構造物補強
 使用済燃料ピット冷却システムの信頼性向上のため、配管等の耐震評価を実施し必要に応じ対策実施



②配管設置
 使用済燃料ピットに消火設備を利用して外部から水を補給するための配管を設置

: 実施済み
 : 実施中または計画中



①消防ポンプ等による水補給
 屋内外の水源から使用済燃料ピットへ水を補給するための設備(消防車/消防ポンプ及び消火ホース)の配備

(美浜1号機の例)

対策	~H23年度	H24年度
①消防ポンプ等による水補給	 H23. 4 完了	
②配管設置	 H23. 12 完了	
③配管支持構造物補強		(実施中 H24年度中に完了予定)
④非常用電源からの電源供給		(定期検査で順次実施中)
⑤監視カメラ設置	 H23. 8 完了	

シビアアクシデント対策

シビアアクシデント対策の箇所

- : 実施済み
- : 実施中または計画中

(O1,02)
 イグナイタの運転に必要な電源の配備 【H23.6配備済み】
 イグナイタを運転するマニュアルの整備 【H23.6整備済み】

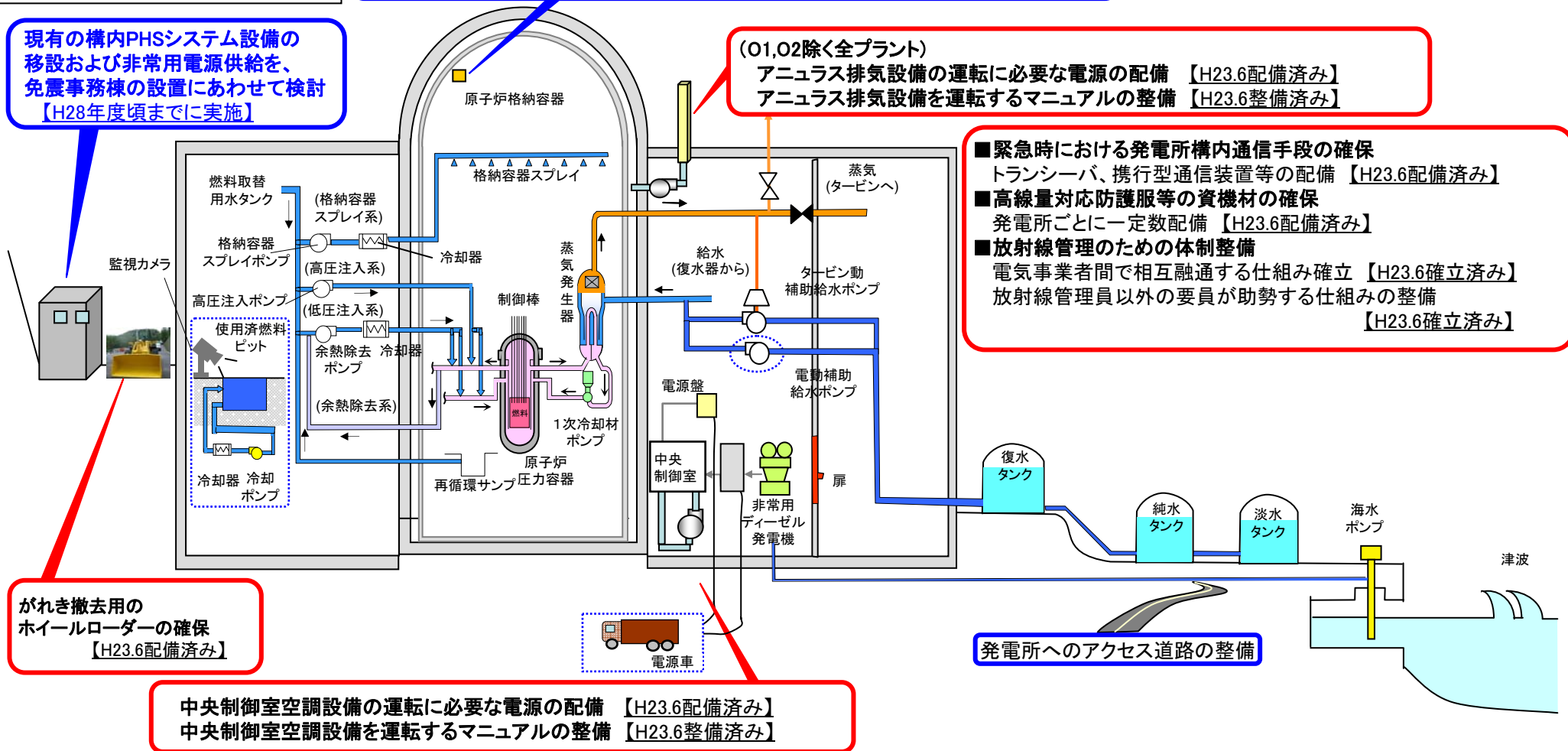
(O1,02除く全プラント)
 触媒式水素再結合装置の設置 【H24,H25年度の定期検査で順次配置予定】

(経緯)
 6/7 NISA指示文書受領
 6/14 NISAへ実施状況報告書を提出

現有の構内PHSシステム設備の移設および非常用電源供給を、免震事務棟の設置にあわせて検討【H28年度頃までに実施】

(O1,02除く全プラント)
 アンユラス排気設備の運転に必要な電源の配備 【H23.6配備済み】
 アンユラス排気設備を運転するマニュアルの整備 【H23.6整備済み】

- 緊急時における発電所構内通信手段の確保
 トランシーバ、携行型通信装置等の配備 【H23.6配備済み】
- 高線量対応防護服等の資機材の確保
 発電所ごとに一定数配備 【H23.6配備済み】
- 放射線管理のための体制整備
 電気事業者間で相互融通する仕組み確立 【H23.6確立済み】
 放射線管理員以外の要員が助勢する仕組みの整備 【H23.6確立済み】



がれき撤去用のホイールローダーの確保 【H23.6配備済み】

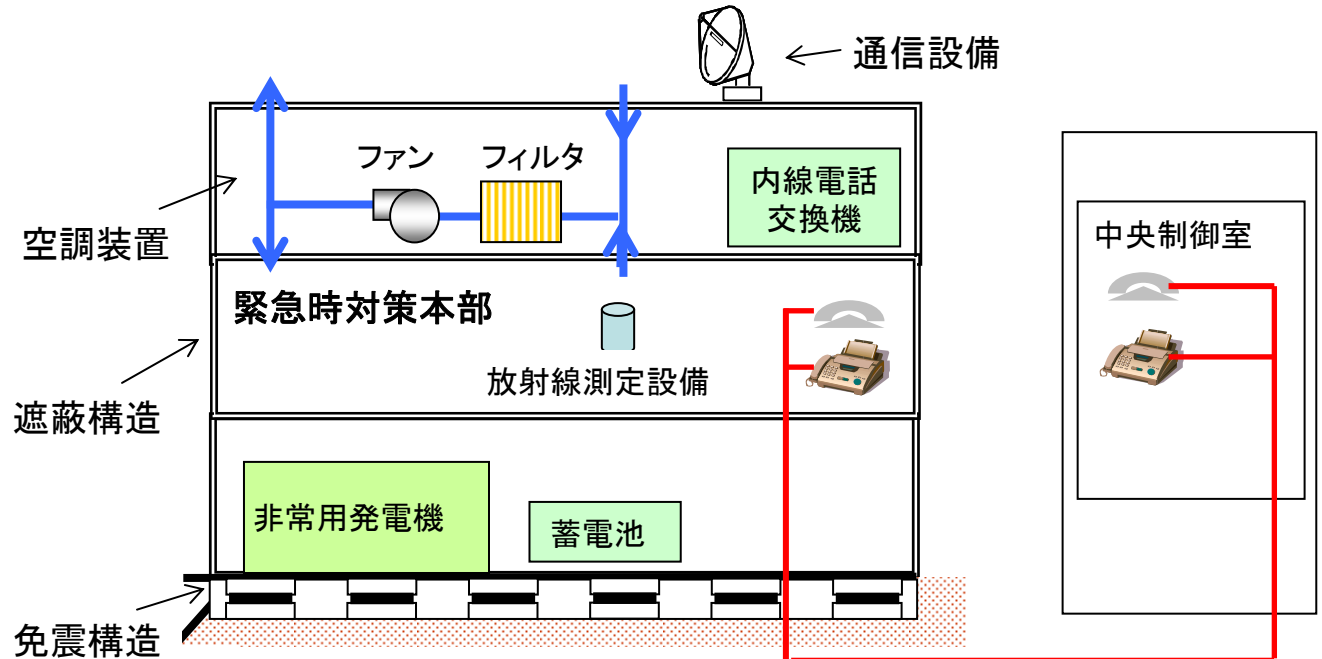
中央制御室空調設備の運転に必要な電源の配備 【H23.6配備済み】
 中央制御室空調設備を運転するマニュアルの整備 【H23.6整備済み】

発電所へのアクセス道路の整備

万一シビアアクシデントが発生した場合においても迅速な対応を図り、被害拡大を防止するため、シビアアクシデント対策を実施

発電所の緊急時対策拠点の設置

- 福島第一原子力発電所事故対応における現場対応状況を踏まえ、対応体制の充実ならびに作業員の安全確保の観点から、地震・津波を考慮した場合でも、室内から対策の指令等が可能な免震事務棟を設置する。
- また併せて通信設備充実および放射線遮へい対策等を図る。



・現行設備の免震事務棟への移設等を建屋工事と並行して実施することにより、運用開始時期を約1年前倒しする。

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
工程	概略検討・設計	法令手続き	免震事務棟建設				H29年度中
		実施設計					
		地質調査	敷地造成			H28年度中	
					通信設備移設等		

- 概略検討・設計 : 施設規模、配置および施設スペック、仕様(耐放射線等)を決定
- 実施設計 : 実工程のための図面整備等を実施
- 法令手続き : 自然公園法、建築基準法、福祉まちづくり条例 等

外部電源強化

送電鉄塔基礎の安定性評価に基づく対策工事、外部電源の回線追加、開閉所等の電気設備の浸水・地震対策、美浜線・敦賀線の送電鉄塔建替

H23年度から現地調査や設計等を実施中

H24.3 77kV用長幹支持がいし免耐震対策

【今後の対策】

送電鉄塔基礎の安定性評価に基づく対策工事、外部電源の回線追加、開閉所等の電気設備の浸水・地震対策、美浜線・敦賀線の送電鉄塔建替

77kV用長幹支持がいし免耐震対策

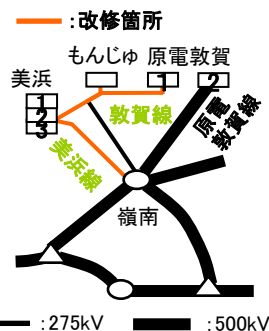
77kVの原子力電源線の長幹支持がいしについて、免震金具を設置した。(93基)



年度	H23
工程	免震金具の製作 免震金具の設置・取付

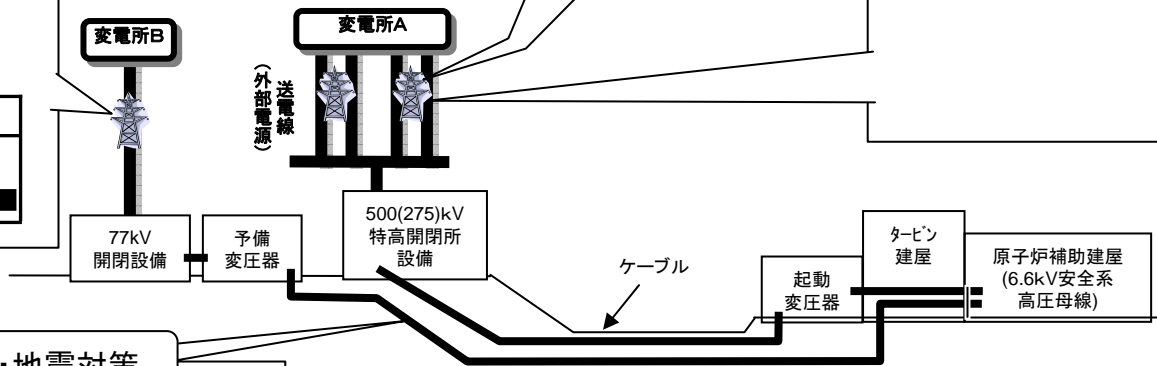
送電線の建替

原子力発電所に外部から電源供給するための送電線のうち、比較的運用年数が経過している美浜線・敦賀線を改修する。



送電鉄塔基礎の安定性評価に基づく対策工事

送電鉄塔基礎の安定性評価(盛土崩壊、地すべりおよび急傾斜地の土砂崩壊)の結果、対策が必要と判断した3基の鉄塔について、鉄塔移設や法面保護工の対策を実施する。

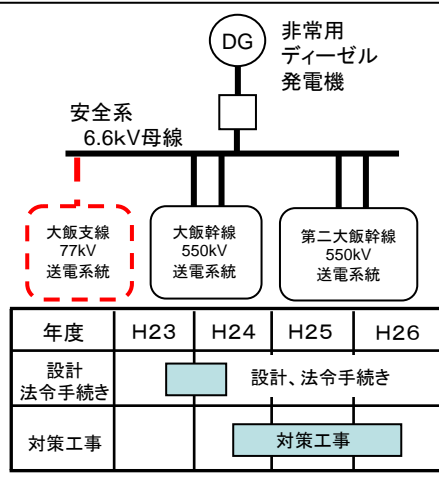


開閉所等の電気設備の浸水・地震対策

77kV開閉設備、予備変圧器から6.6kV安全系高圧母線のある建屋までの間の布設ルートを高所化、防油堤の嵩上げ等を行なう。

各号機と全ての送電回線との接続

大飯3/4号機の安全系所内高圧母線へ大飯支線(77kV)を接続する。(その他のプラントは全て接続されている)

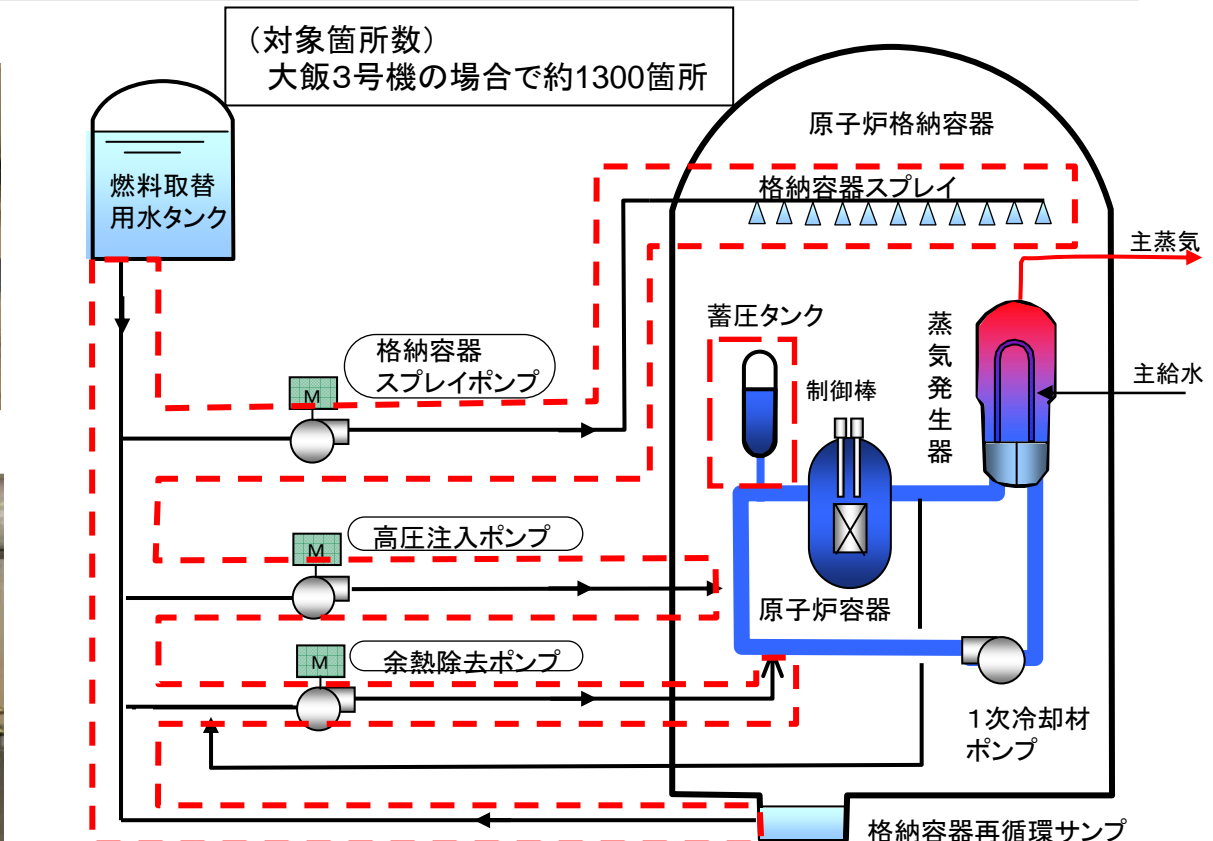
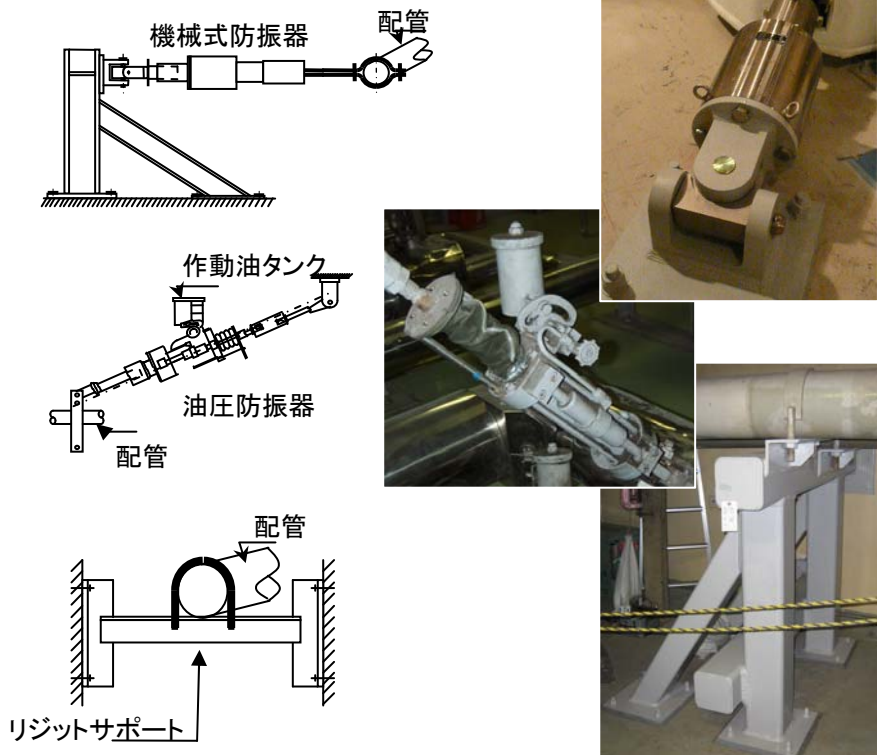


年度	H23	H24	H25	H26
設計 法令手続き			設計、法令手続き	
対策工事			対策工事	

耐震サポートの総点検

緊急(非常用)炉心冷却系統に設置されている支持構造物について、取付状態、干渉状態、油もれ、き裂等の異常がないことを、足場の設置、配管保温材取外しを行い、目視にて確認。また、支持構造物のボルト・ナットについても、触診等により緩みの無いことを確認。

○耐震サポートの例



○点検実績(記載のないプラントは計画中)

点検項目	対象系統
外観点検 緩み確認	高圧注入系統 低圧注入系統 蓄圧注入系統 格納容器スプレイ系

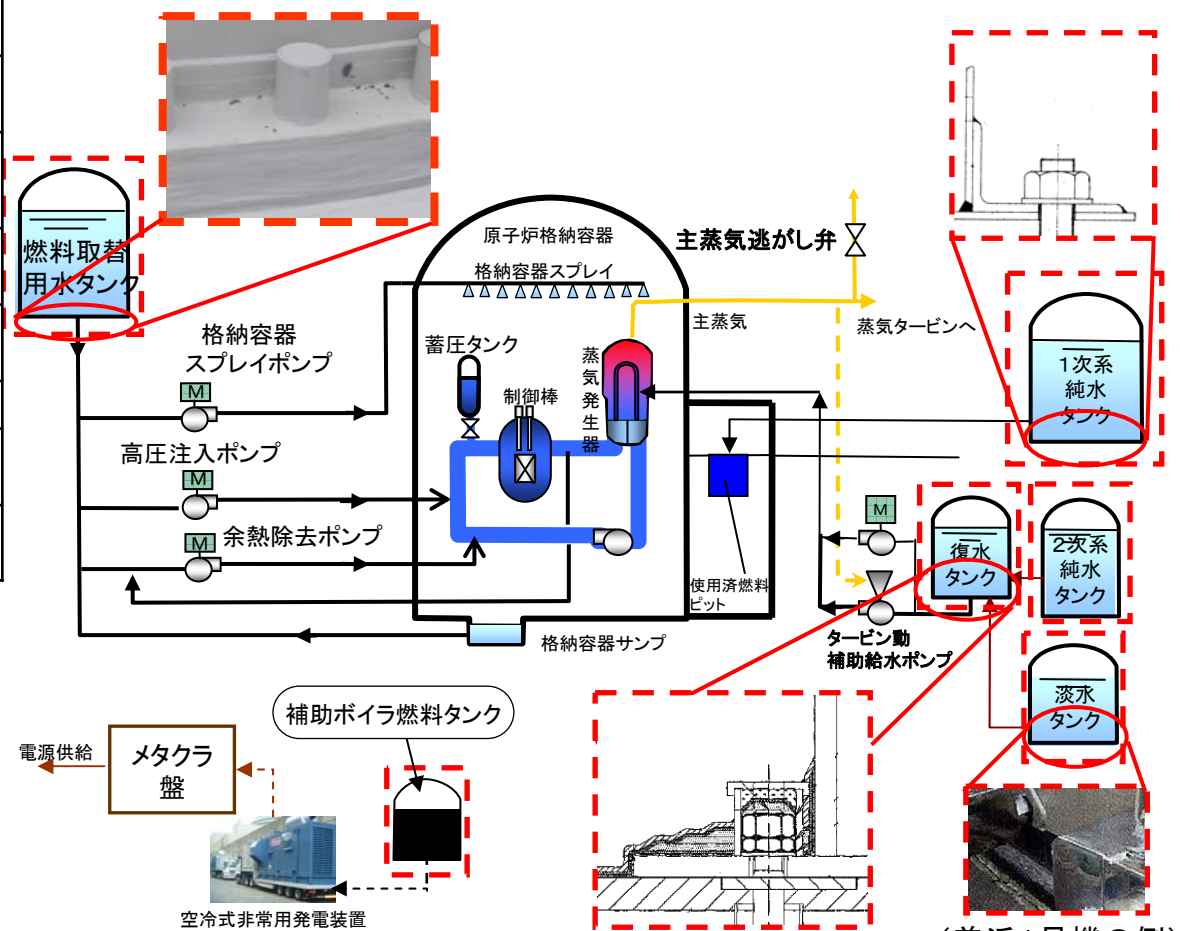
プラント名	実施済み (H24.3.30)	サポート個数
美浜3号機	実施済み (H24.3.30)	約1500個
高浜1号機	実施済み (H24.2.27)	約1900個
大飯3号機	実施済み (H24.1.31)	約1300個
大飯4号機	実施済み (H24.3.15)	約1300個

タンク基礎ボルトの総点検

蒸気発生器及び使用済燃料ピットへの補給水源として期待される屋内外タンクや緊急炉心冷却系統に設置されている屋内外タンク等の基礎ボルトについて、腐食・塗膜のはがれ等の異常がないことを可視範囲で目視により確認。また、基礎ボルトについて可能な範囲で、打診等により緩みの無いことを確認。

○基礎ボルトの点検箇所数(高浜3号機の例)

設置場所	対象機器	用途	基数	基礎ボルト数/基	点検箇所数 (基数×基礎ボルト数)
CV内	蓄圧タンク	N2ガスによるRCSへの注水	3	24	72
屋内	燃料取替用水タンク	ECCSによるRCSへの注水、格納容器スプレイ	1	160	160
	ほう酸注入タンク	ECCSによるRCSへのほう酸水の注入	1	16	16
	1次系純水タンク	SFPへの水補給	1	40	40
屋外	復水タンク	SGへの給水	1	72	72
	2次系純水タンク	復水タンクへの水補給	2	なし	-
	淡水タンク	復水タンクあるいはSFPへの水補給水	3	なし	-



○点検実績

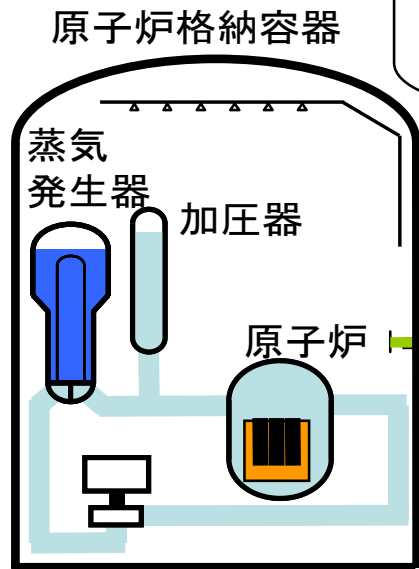
美浜1~3号機	実施済み (H24.3.26)	1号機: 240個 2号機: 210個 3号機: 336個
高浜1~4号機	実施中 (H24.1.30~)	1号機: 284個 2号機: 284個 3号機: 360個 4号機: 360個
大飯1, 2号機	実施中 (H24.2.27~)	1号機: 369個 2号機: 357個
大飯3, 4号機	実施済み (H24.2.24)	3号機: 192個 4号機: 192個

(美浜1号機の例)

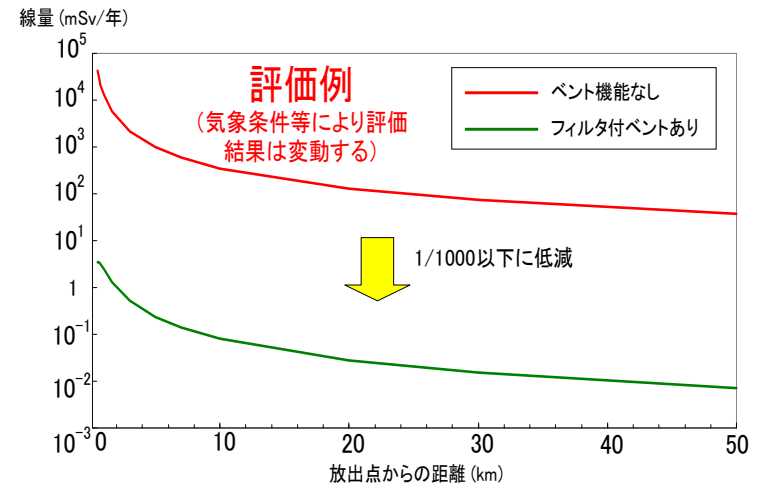
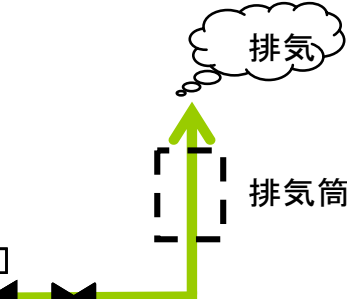
フィルタ付ベント設備

- ・万一、炉心損傷により格納容器の内圧が大幅に上昇した際に、格納容器の圧力を低減し損傷を防止
- ・フィルタ機能を有することで、放射性物質を除去し、土地汚染による長期避難を極小化

概念図



格納容器からの放射性物質を含んだ気体を外部へ放出する前に、フィルタを通すことにより、放出する気体から放射性物質を除去



天正地震に関する津波堆積物調査の結果

経緯

- 若狭湾における津波の痕跡に関する情報の蓄積を目的に、昨年10月から三方五湖周辺でボーリング調査(9箇所)を3事業者で実施
- 約1年間をかけて、試料分析・評価を実施する計画
- 天正地震に関する津波堆積物調査結果については、文献調査結果、神社への聞き取り調査結果とともに、先行して昨年12月に国・県他へご報告

調査結果

【天正地震による津波に関する津波堆積物調査】(右図)
 久々子湖2箇所、菅湖・中山湿地各1箇所を選定し評価

- 結果 →
- 4箇所とも砂層は認められず
 - 久々子湖の①(No.2)の箇所から微量の有孔虫などが認められたが、その他の地点では認められず

【天正地震に関する文献調査】

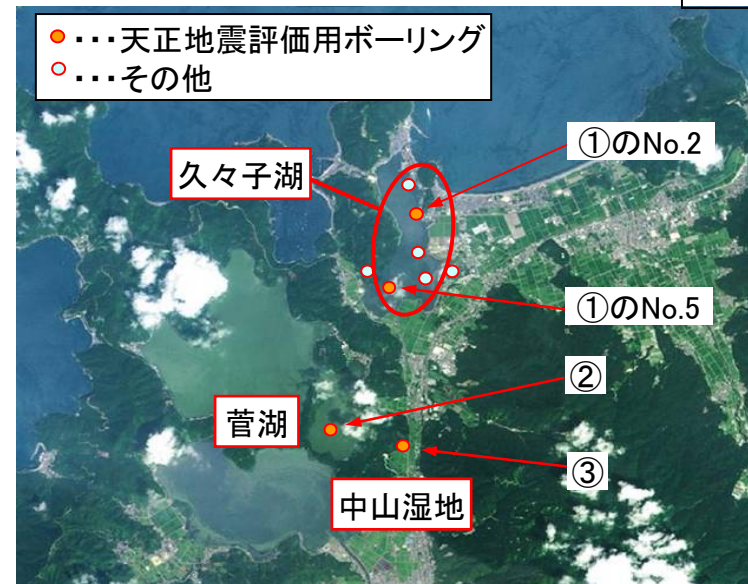
若狭湾沿岸の県市町村史誌(36文献)を調査

- 結果 →
- 渡島大島津波(1741年)等の記載はあるものの、フロイス日本史、兼見卿記他の4文献(実質的にはフロイス日本史、兼見卿記2文献)以外に、天正地震による津波の記載は無し

【神社聞き取り調査】

沿岸部に近くかつ標高の比較的低い、若狭湾沿岸域の神社13箇所へ聞き取り等の調査を実施

- 結果 →
- 2神社において天正地震以前に発行された文書や太刀が現存
 - 宮司が常駐する神社から、過去、津波が来たという記録はないとの回答あり



		堆積構造の把握(0~2m) 津波堆積物の指標となり得る砂層の有無	堆積物の堆積環境の確認			
			有孔虫	貝形虫	ウー	海水性珪藻
①久々子湖	No. 2	認められない	微量	微量	無	微量
	No. 5	認められない	無			
②菅湖		認められない	無			
③中山湿地		認められない	無			

事業者の評価

調査結果から、「天正地震による津波があったとしても、久々子湖における海側から遠い地点には至らない規模であった」と評価

保安院の見解

これまで得られている文献調査や水月湖等での調査等の結果を踏まえると、古文書に記載されているような天正地震による大規模な津波を示唆するものは無いと考えられるが、天正年間を含めてデータを拡充するために、津波堆積物について、更なる追加調査を行う

若狭湾沿岸における津波堆積物の追加調査概要

調査目的

若狭湾付近の過去の津波の痕跡情報を蓄積することを目的として、これまで実施してきた津波堆積物調査に加え、さらなるデータ拡充を図ることを目的として、3事業者で追加調査を実施

調査位置(右図参照)

- ・猪ヶ池エリア (6箇所)
- ・久々子湖東側エリアの陸地 (8箇所)

調査方法

- ・ボーリング調査等による試料の採取および分析

【試料採取方法イメージ】

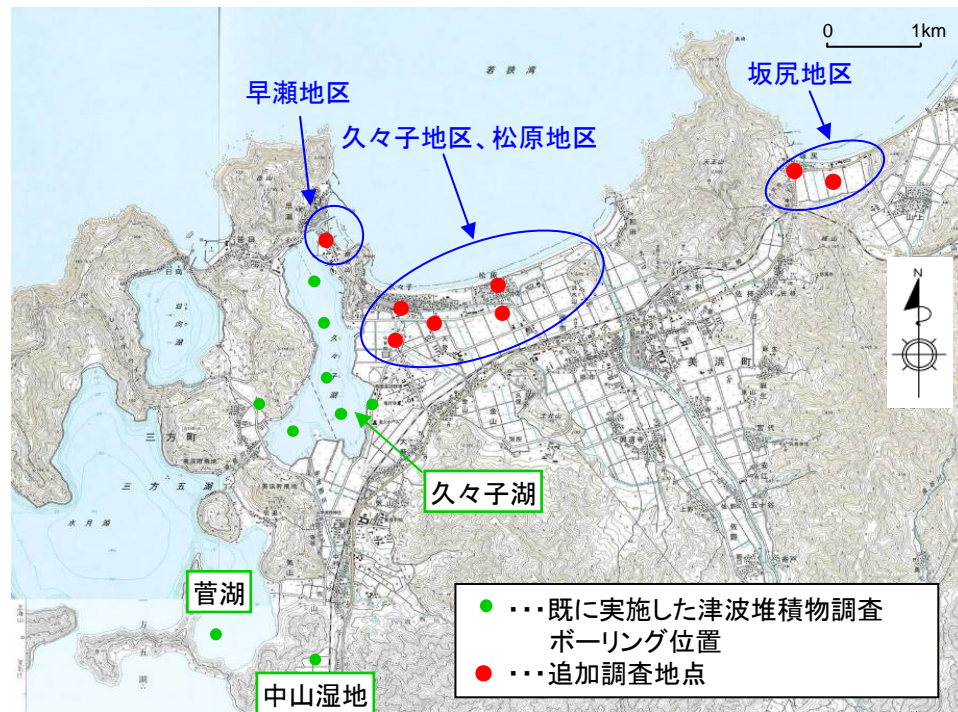


- 簡易ボーリング ... 打ち込み式サンプラーにより地下試料を採取
- ピット ... 表層を掘削して地層確認、ならびに試料採取
- 陸上ボーリング ... ボーリングマシンにより地下試料を採取
- 水上ボーリング ... フロート台船上で掘削(基本的に陸上ボーリングと同じ)

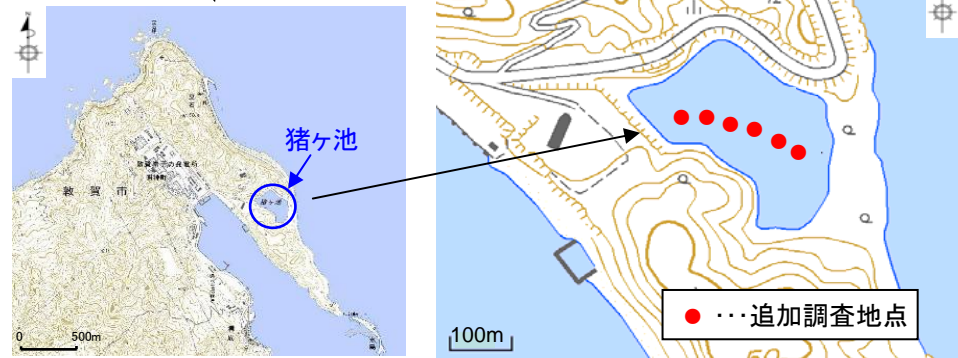
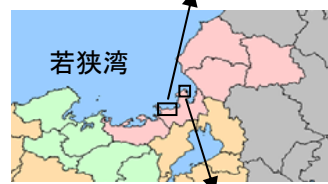
調査期間

	年 月	H23				H24							
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	...	10	
これまでの津波堆積物調査	試料採取			■									
	分析・評価			■	■	■	■	■	■	■			
	文献・神社聞き取り調査	■	■	■	■								
追加調査	試料採取							■	■	■			
	分析・評価							■	■	■			

天正年間に関する調査結果は5月中旬目途に報告



調査位置(久々子湖東側エリア)



調査位置(猪ヶ池エリア)

ま と め

- 福島第一原子力発電所事故については、同じ原子力事業に携わるものとして、決して起こしてはならない事故として重く受け止めております。
- 安全性向上対策については、緊急対策を完了し福島第一原子力発電所と同様の事象に対しても、原子炉や使用済燃料ピット内の燃料を安全に冷却できることを確認しております。
- 福島第一原子力発電所事故からこれまでに明らかになった知見により、シビアアクシデントへの対応、また、運用面からの対策についても、3月の追加対策を含めて、安全性の向上、多様性確保の観点から、各種対策について今後も引き続き計画的かつ確実に実施してまいります。
- 今後も、継続的に福島第一原子力発電所事故等の情報収集、分析、評価を実施し、新たな知見が得られた場合には、さらなる安全性向上対策を迅速かつ的確に実施することで、原子力発電所の安全性を向上させてまいります。